

地球温暖化に対応した ピオーネの着色技術の検討

東北農林専門職大学附属農林大学校
果樹経営学科 荒木 歩

1 目的

近年、温暖化の影響により‘巨峰’や‘ピオーネ’等の黒系ブドウでは果皮中のアントシアニン合成が阻害され果粒の着色不良や生理障害が多く見られ、今後も温暖化の進行に伴い、着色不良房が増加すると考えられる。そこで、黒系のブドウの着色向上を目的としてアブサップ液剤の処理の有無が、着色に及ぼす影響について検討した。

2 取組内容

農林大果樹園場の‘ピオーネ’を供試し、アブサップ液剤の着色に対する効果を検討する。

＊アブサップ液剤とは昨年国内販売を開始した植物成長調整剤で、ブドウの果皮に含まれる色素成分であるアントシアニンの生成を促進し、果皮の着色を向上させる効果がある。

試験方法

・アブサップ液剤200倍水溶液を蓄圧式噴霧器を用いて、着色始期に、果房に万遍なく散布する。

調査方法

・果実着色調査はカラーチャートによる判定(1～12段階、数字が多くなるほど黒いと判定)

3 試験結果



図1 散布開始時の状況



図2 慣行区の着色状況(収穫時)



図3 試験区の着色状況(収穫時)

表1 試験開始時の着色程度(7/24) n=10

区	調査果粒の位置			果房 平均
	上部	中央部	尻部	
試験区	2.3	3.0	2.5	2.6
慣行区	3.1	2.1	2.5	2.5

表2 収穫時の着色程度(9/25) n=10

区	調査果粒の位置			果房 平均	糖度 平均
	上部	中央部	尻部		
試験区	9.7	10.9	10.6	10.3	17.1
慣行区	6.7	7.0	7.3	7.0	17.8

4 まとめ

‘ピオーネ’の出荷基準は着色8以上、糖度18%以上である。試験区は早期から着色が進んだため、より高品質なブドウ栽培に有効であると考えられた。しかし、データは示していないが、糖度の上昇の仕方は慣行区と同等であったため、極端な早期出荷は難しいと考えられた。

5 参考文献

・天然型アブシジン酸含有新規液剤散布処理でブドウ「ピオーネ」の果皮着色が向上
(発表論文等:杉浦ら(2019)園学研、18(1):81－87)